海外研修レポート

研修医 2 年　近藤英輔

昨年度から始まった海外研修プログラムで、2009 年 1 月の 1 ヵ月間、私はカナダ・トロントのトロント小児病院で研修させて頂きました。

小児科学教授の尾内一信先生が小児病院の臨床薬理学部門教授の伊藤信也先生と以前から御親交があることから臨床薬理学部門の observer として行かせて頂くことになりました。私は将来小児科志望であり、これから小児医療に携わっていく意欲に燃えているところに今回のお話を頂き、ぜひ行かせて頂きたいと思いましたが、少し身構えてしまうところがありました。私はほとんど英語がしゃべられないので、あちらの先生を初めスタッフの皆さんに相手にしてもらえず辛い毎日では・・・、という気持ちがあり、すぐには返事ができませんでした。それでも最終的に行くことを決心したのには、その後何人か日本人の先生がいらっしゃることがわかり、何とかなるかもと思ったことが 1 つです。そして何といってもトロント小児病院は Hospital for sick children が正式名称であり、世界的に有名な小児病院で、行くことができるこの機会を逃すのはもったいない、見るだけでも見てみたいという気持ちが徐々に強くなり気持ちを抑えることができなくなったことが大きいです。

1 月のトロントは冬真っ盛りで、暖かい日で－6℃程度で寒い日には－20℃という日もありました。雪が降っている日が多く、雪道をスノーブーツで通う毎日でした。移民の多い街と言われているだけあり、さまざまな人種の方が暮らしておられ、チャイナタウン、コリアンタウン、リトルイタリー、グリークタウンなどがありました。そのため色々な国の料理店がひしめき合って建っており、毎日の食事には困りませんでした。

1 カ月間の滞在場所は SweetHeart B&B というカナダ人男性と日本人女性の中年夫婦が経営する、日本で言う民宿のようなところでした。部屋数は 10 で部屋は狭く、キッチン、トイレ、シャワー共同であり、最初は若干抵抗がありましたが、他のお客さんも日本人が多く、語学留学の方がほとんどで長期滞在中であったためいろいろな話しをしたり鍋をしたりして楽しく生活することができました。

本題の小児病院での研修は充実したものでした。周りの先生方はみなさん優しくて、僕の

つたない英語に対してでもしっかりコミュニケーションをはかろうとしてくださいましたし、思っていたよりも日本人の先生が多くいらっしゃってそれほどストレスなく過ごすことができました。基本的には臨床薬理学部門のカンファレンス、セミナー、ラウンドに参加させて頂きました。臨床薬理学ということで Motherisk(マザリスク)という妊娠、分娩、授乳に関する薬剤、薬物、アルコールの影響についての診療、研究、教育を主な柱として行っていました。初めはほとんど内容がわからず眠気に耐える日々でしたが、徐々に耳が慣れ、なんとなく内容がわかり参加することが楽しくなってきました。今までは薬の母体に対する影響に関しては大切であることはわかっていましたが、それほど真剣に向き合ったことがありませんでした。この機会を通じて改めて薬の影響を考えることの大切さ、面白さがわかりました。今回、研修にあたって、必要な生活物品、宿泊場所、必要書類の書き方など、働かれて 3 年半になる田中先生という先生にいろいろと相談に乗って頂いて御世話になっていましたが、研修中も本当にお世話になりました。日常のカンファレンス、ラウンドを初め、お忙しい中、日本人の先生がおられる部門の見学をお願いしてくださり、病院内のいろいろな部門を見学させて頂いたり、スタッフの先生とのお食事会を開いて頂いたりしました。また、週末のプランについても相談にのって頂いて楽しく休日を過ごすことができました。

PICU、CCU、NICU、ER、病棟と見学させていただきましたが、NICU1 つとってみても設備、スタッフの数、技術レベルが違うのをひしひしと感じました。そのような場所で働かれている日本人の先生方は各々に小児医療に対する高いモチベーション、熱いハートを持たれており、お会いすることができてすごく良い刺激となりました。

この研修は私にとって本当に有意義なものであったと思います。今回得たものを今後小児科医としてやっていく中でしっかりと活かしていきたいと思います。

今回小児病院での研修を始めるにあたって、一緒に同行していただき、サポートしてくださった小児科の尾内先生には大変感謝しております。おかげさまで充実した研修生活を送ることができました。また、私を受け入れてくださった臨床薬理学部門教授の伊藤先生には大変御世話になり、御礼を申し上げます。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった、レジデント教育委員長の柏原直樹先生、プログラムディレクターの長谷川徹先生、角田司病院長先生、植木宏明学長先生、川崎明徳理事長先生をはじめとする川崎医科大学附属病院關係者の皆様には大変感謝しております。ありがとうございました。